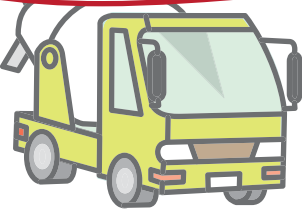


# 大阪地域が大団団結で値戻しへ!

大阪広域生コン協組  
阪神地区生コン協組  
大阪レディーミクスト協組



今年4/1から合流!

全国に誇れる業界づくりスタート

1月20日、大阪広域生コン協組、阪神地区生コン協組、大阪レディーミクスト協組は、低迷する大阪地区の生コン業界再建に向け、労働組合と協調して本年4月1日からの値戻しに向けて動き始めた。

阪神地区生コン協組とレディーミクスト協組の各社は、広域生コン協組に加入し、これまで値引きの温床となっていた限定販売制度を廃止する。

**集团的労使関係  
再構築を確認!**

さらに、労務の窓口である大阪兵庫生コン経営者会の強化と集团的な労使関係の再構築に向け、2011年の直系工場の集団脱退によって生コン経営者会の解体と集団交渉つぶし、約束不履行を画策した姿勢を改め、脱退した直系社の経営

## 労働組合排除で再建など不可能!

この間、業界の秩序づくりのパートナーである労働組合を排除し、中小企業の団結体であるべき協同組合をセメントメーカーに乗っ取られ、値下げ競争を続けてきた企業に対して、「必ず生コン業界は崩壊する」と生コン産業政策協議会は厳しく追及してきた。

その指摘通りに近畿圏では多くの中小企業が倒産し、後がない状態になっていた。

ようやく労働組合を排除

することは業界崩壊につながると気づいたのが大阪地区の現状である。

大阪地区の生コン協同組合がセメントメーカーから自立し、ゼネコンや大手商社との対等取引を実現するには、中小企業が横断的に結集し、労働組合と共同歩調を堅持していく以外に道はない。

関西の生コン発足以来の歴史的教訓を生コン業者は改めて認識する必要がある。

**値戻しへと始動  
業界再建目指す**

いよいよ、近畿の生コン業界が対立を留保し、値戻

しという一致点で大団団結することが確認された。値引き競争による原価割れで倒産が続出している大阪地区の生コン業界を再建し、品質よりコスト優先の「安かろう悪かろう」を改め、全国に誇れる生コン業界づくりを本格的にスタートさせることとなった。

**生コン産業政策協議会** (生コン産労・全港湾大阪支部・近圧労組・関生支部) 大阪市西区川口2-4-28 TEL.06(6583)5546

# 政策協議会共同ニュース

2015年  
2月 7日号

# 大阪地域の生コン業界崩壊の原因

## メーカー主導の政策は間違いだと判明 労組敵視政策は中小企業も苦しめる！

**闘う相手を間違うな  
労組との協力で再建**

大阪広域生コン協組は1994年に結成された。当時、大阪府下の5協組（北大阪阪神生コン協組、大阪生コン協組、東大阪生コン協組、阪南生コン協組、南大阪生コン協組）を一本化してスタートした。

初代松本理事長は「これまで生コン業界再建の値戻しのためにゼネコン・商社・セメントメーカーなどに『お願い』してきた。しかし、いくら頭を下げてても値戻しに理解を示さず、それどころか、逆にさらなる値下げを求められるだけであつた」と指摘。

松本理事長は、値戻しに

は中小企業と労働組合がしっかりと団結し、「闘う」以外に活路が見いだせない」と判断。それを意志表明したことで労使による再建への取り組みがスタートした。結果、適正価格收受・品質保証・安定供給・現金回収・シェア運営を実現し、大阪地区における業界の秩序づくりが前進した。

### 労組弱体化を目論み 専業化や本勤減らし

しかし、業者は、業界が安定すると、過去の歴史を顧みなくなる。生コン業界を再建したパートナーである労働組合の排除に奔走するのだ。同時に、「共同の蜜」を独占するために、新增設やアウトが登場すること

なる。今の大阪地区がその最たるものだ。

さらに、労働組合を排除する一方で、「アウト対策」と称して値下げの仕組みである「対応金」を各工場から徴収し、年間休日成形骸化する土曜稼働、安全衛生を無視した袋洗浄を労働者に押し付けるなど、労働組合との約束を反故にした。また、セメントメーカーは、労働組合の影響力を削ぐために、この間、輸送を分離する一方で運転手の日々雇用化を強行。同時に、労働組合のセメントメーカーに対する直接的な影響力を弱めるために専業化を進めてきた。しかし、専業社を潰すことで労働組合の影響力を弱めようとしても、逆にその攻撃によって労働組合

の団結力は高まり、次々と労働者が結集。自主生産で会社が潰れても労働組合は残り、業界への影響力は衰えるどころか拡大。



### 労働組合への攻撃は 団結力強化の源だ！

労働組合の政策立案能力・戦闘力・解決力は攻撃によってますます強化される。セメントメーカー・ゼネコンはそれを認めざるを得ない状況にまで追い込まれたのだ。